

第8回 交流会 知財セミナー in イノベーションハブ京都

今回のIHK交流会は、(社)LINK-J(理事長:慶應義塾大学大学院医学研究科 委員長・岡野 栄之)との共催です。LINK-Jは、医学をはじめ、理学や工学、ICTや人工知能といった新たなテクノロジーなど、分野を超えた内外の人的交流・技術交流を促進し、ライフサイエンス分野におけるシーズやアイデアの事業化支援を目的に設立された団体です。

ライフサイエンス分野をご専門とする弁理士の先生方をお招きし、研究成果の事業化において重要である特許戦略についてご講演いただきます。

オープンイベントですので、学内外の多数の方々のご参加をお待ちしております。

日時: 2018年5月9日(水) 18:00~20:30

会場: 医薬系総合研究棟(建物番号68) 1階 アウトリーチエリア

(アクセス: <http://www.ihk.med.kyoto-u.ac.jp/access>)

対象: オープン(学内外の研究者、学生、社会人)

参加無料

共催: 京都大学「医学領域」産学連携推進機構、一般社団法人LINK-J

プログラム

(18:00~20:30)

ご挨拶

講演①

ライフサイエンス分野における「IPランドスケープ」に基づく特許分析の実践事例

正林国際特許商標事務所 所長・弁理士 正林真之先生

講演②

ライフサイエンス分野における特許のポイント

~ビジネス的視点から研究者に知っておいて欲しいこと~

辻丸国際特許事務所 所長・弁理士 辻丸光一郎先生 / 弁理士 南野研人先生

懇親会

参加申込(〆切:4/30) <https://bit.ly/2q0Rd3P>



※締切前であっても、定員になり次第、締め切らせていただきます。

講演概要／講師略歴

講演①

ライフサイエンス分野における「IPランドスケープ」に基づく特許分析の実践事例

「特許情報」は、研究機関や企業の技術的な本音が反映されたビッグデータであり、経営の視点に基づく「IPランドスケープ」手法は、ライフサイエンス分野においても知財戦略、研究開発戦略、経営戦略の策定に活用できます。本セミナーでは、経営の視点からの知財活用、及び、ベンチャー企業の成長戦略に役立つIPランドスケープ分析事例をご紹介します。



正林 真之 弁理士

1989年東京理科大学理学部応用化学科卒業。1994年弁理士登録。1998年正林国際特許商標事務所設立。2007年～2011年度及び2018年度日本弁理士会副会長、2010年～2013年東京理科大学専門職大学院(MIP)客員教授、また、現在は東京大学先端科学技術研究センター 知的財産法分野 客員研究員及び東京大学大学院 新領域創成科学研究科 非常勤講師等を務める。注力している業務は、知的資産経営・知財価値評価、知財マネジメント、知財コンサルティングである。

講演②

ライフサイエンス分野における特許のポイント ～ビジネス的視点から研究者に知っておいて欲しいこと～

再生医療を始めとするライフサイエンス分野は、アカデミックな発見が、直ちに医療等で実用化・ビジネス化するケースが少なくなく、ビジネス化する上で特許は必須である。一方、ライフサイエンス分野における特許は、機械・電気等の分野とは異なるプラクティスがあり、これを踏まえた特許戦略を構築することがビジネスの成否を分けるといっても過言ではない。本セミナーでは、事例を挙げて、ライフサイエンス分野において、ビジネス的視点から、研究者に知っておいて欲しい特許のポイントを解説する。



辻丸 光一郎 弁理士 博士(工学)

1963年生。企業勤務を経て、1999年に弁理士登録。辻丸国際特許事務所を開設し、バイオ・化学をはじめ幅広い分野で、特許出願、訴訟、交渉を多数受任してきた。また、これらの知見に基づく知財事業戦略を得意とし、多様な規模・ステージに応じたコンサルを行うほか、セミナー、知財評価、ベンチャー経営等にも携わっている。



南野研人 弁理士 博士(生命科学)

1983年生。京都大学大学院生命科学研究所博士課程を修了し、辻丸国際特許事務所に入所。2014年に弁理士登録。国内外の企業や研究機関の特許出願に幅広く携わっている。バイオ分野を得意とし、2016年より日本弁理士会バイオ・ライフサイエンス委員会に所属している。